

R3 群馬県小学校英語部会研究協議会



自ら学び表現できる児童の育成
～小中連携とICTを活用した授業づくりを通して～

館林市立第七小学校

I 本校の研修との関わり

七小 資質向上研修の流れ

学習指導要領 学校教育の指針 学校教育目標 校長の経営方針 目指す子どもの姿・教師の姿

1 現状の把握（教師の指導の状況、子どもの姿・意識等）

- ア. 自分で判断して調べたり、自分の考えを整理して表現したりすることを苦手になっている児童が多い。
- イ. 交流活動で、考えを広げたり深めたりすることができない。
- ウ. タブレットを活用した授業について、教師の指導力に差がある。児童のタブレットを扱う技能などにも差がある。

2 課題とその原因の分析（現状の背景）

- ア. 調べる・表現する技能が身に付いていない。活動に対する意欲も低い。
- イ. 提示できる資料を有効に活用しないと、話す・聞くだけでは理解が不十分になってしまう。
- ウ. 教師、児童とも、タブレットにふれてきた経験の差が大きい。

3. 「自ら学び、表現できる児童の育成」

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、ICTを活用した授業改善を通して

タブレットを活用して、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、自ら学び、表現できる児童を育成したい

- ①ICT機器や「ロイロノート」の操作方法の理解（ア、ウ）
 - ②「はばプラⅡ ICT活用Ver.」の理解
実践授業例の活用（ア、イ）
 - ③各実践の共有、修正（ア、イ、ウ）
- +
- ICT支援員の活用

全教科 国語 社会 算数...
英語（+小・小・中連携）

管理職や情報主任、研究推進委員による参観と助言

授業実践
PDCA
サイクル

- チームによる授業実践
- ・師範授業、相互授業参観の実施（参観→振り返り）
 - ・年3回の実践報告会
 - ・日常の情報交換

研修のまとめ

Ⅱ 小・中連携について

1 H30から昨年度までの取組

英語担当者

1年～4年 学級担任・ALT 5・6年 兼務英語教員(中学校教諭)・ALT

- (1) 週1回の英語部会（高学年担任 兼務英語教員 ALT）の設定
- (2) 兼務英語教員と中学校英語主任教員による「**群馬の中学生 英語4技能のスキルアップ事業**」に基づく授業づくりについての研修会の実施
- (3) 兼務英語教員のモデル授業参観、相互授業参観
- (4) 県ALTとの効果的なTT授業のモデル授業校内公開

ALTとの授業づくりの仕方が分かった！



ALTの役割、動き方が分かった！

(5) 中学校と連携した「Grow Up Sheet」(単元計画表)の校内での統一作成

Grow Up Sheet

Class No. Name _____

館林市立第七小学校 6年生の到達目標

聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと
<ul style="list-style-type: none"> ・食べることや食べ物、衣服、遊びやその道具などについて、具体的な情報(誕生日や特別、誕生日など)を読み取る。 ・イラストや写真なども見ながら、短い話が聞き取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示、パンフレットなどから必要な情報を読み取ったり、絵本などの言葉や文を、絵を見ながら推測して読んだりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や相手のこと、身近な事について、知っている言い方で、自分の力で伝え合える。 ・その場で質問したいことを自分で考えて答えたり、実際に自分で考えて答えたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを整理して、自分の考えや気持ちなどを、友達に分かりやすく、簡単な言い方で話せる。
<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話す、思い出の学校行事やそこでしたこと、その感想などについて、伝えたい内容や知りたいたい情報を聞き取る。 ・聞き取りたい情報を、イラストや写真なども見ながら聞いて理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思い出の学校行事やそこでしたこと、その感想などが書かれた文の、知りたいたい情報を読んで、意味がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを整理して、思い出の学校行事やそこでしたこと、その感想などを、友達に分かりやすく、簡単な言い方で話せる。 ・その場で質問したいことを自分で考えて答えたり、実際に自分で考えて答えたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を整理しながら、簡単な言葉や文を書き写せる。 ・名前や年齢、趣味、好きなことなどについて、書かれた文や文章の一部を、自分や身近なことに書き換えられる。

4技能の学年到達目標

ユニットの目標

Unit 6 I enjoyed school.

Unit6の学習目標: 自分にとっての小学校一番の思い出を、友達とやりとりしながらかたのよう。
～卒業文集に、なに書こう?～

各時間のゴール(めあて)

	Goal(めあて)	Reflection(振り返り) できたこと・むずかしかったこと	mini talk
1	本単元のゴールについて知ろう。 自分で話したいことを考えてみよう。		○
2			○
3	書こう		○
	書こう		○
4			○
5	書こう		○
	書こう		○
6			○

各時間の児童の振り返り
(できたこと・むずかしかったこと)

ミニトークの自己評価
(○をつける)

(7) R2 「群馬の小学生 英語コミュニケーション力向上授業事業」 指定校公開授業

- 「はばプラⅡ」のモデル授業（兼務英語教員 ALT 6年学級担任）
単元の1時間目。「はばプラⅡ」に示されている「試しの活動」を取り入れた。そこから自分の課題を見つけ、単元を通して追究していく。



単元全体の学習内容を提示する。

まずは、自分が使える語句を使って友達と会話をする。単元全体を通して、知識・技能を積み上げ、自分の考えを伝えられるようにする。

(8) 学校全体として … 授業以外で児童が英語にふれる機会の設定

① 英語による放送

- 朝の放送…英語の歌をかけながら、英語で放送する
- 昼の放送…ALTが、給食献立や最近あった身近な話題、小学生時代の思い出などについて英語で話す
- 掃除の放送…英語の歌を流す

Good morning everyone.
It's Monday
June first
today.



Let's talk about
today's lunch!



② ALTの活用

- 廊下で英会話…20分休みに廊下や教室などで簡単な会話をする
- 他教科の授業で、ALTを積極的に活用する。

2 今年度...昨年度までの連携を継続 新しい取組

(1) 小・小・中連携

① 授業(他校の英語教師が授業を行う)



1年～4年 兼務英語教員(市内小学校教諭)・ALT



5・6年 兼務英語教員(市内中学校教諭)・ALT

年度初めに、授業の進め方などについての打ち合わせを3回実施した。その後は、必要に応じて担当教諭と七小英語主任、各担任が情報交換を行い、共通理解を図りながら授業を進めている。

② 小中ALTによる情報交換

(2) 校内研修の実践内容や、ICT機器の使い方についての情報交換・共通理解

(3) 「Grow Up Sheet」「Can Do リスト」の見直し



小中ALTの話合い

Ⅲ ICTを活用した授業

七小の実践例

調べ学習…社会



意見交流…国語



活動の録画…音楽



発表…理科



ICTを活用した英語の授業づくりの具体的実践例

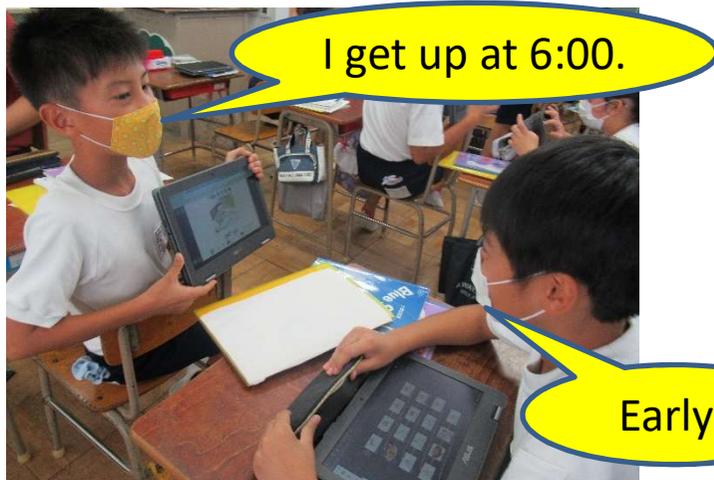
(1) 活動内容の把握・技能練習

デジタル教科書の映像をテレビ画面で映したり、チャンツなどを行ったりしながら、学習内容の理解や技能の定着を図る。

(2) 調べ学習

活動に必要な画像などをインターネットなどで検索したり、自分で写真や動画を撮影したり、絵に描いたりする。

(3) 意見交流・発表



自分の考えや意見、会話に必要な絵や写真などをタブレットやテレビなどに掲示し、友達に指し示すなどしながら会話をする。

(ペア・グループ・全体)

5年生 「一日の生活を紹介しよう」

(4) 会話の録画



「試しの活動」で、児童が自分たちの会話を動画撮影し、会話内容や話し方などについて課題を見つけて、次の会話の活動に生かす。

(5) 振り返り

活動の振り返りを提出し、大きな画面に表示して全員で見たり、他の友達の振り返りを個別に見たりしながら、次時の授業につなげる。また、教師の児童理解や評価に活用する。

(6) パフォーマンステスト

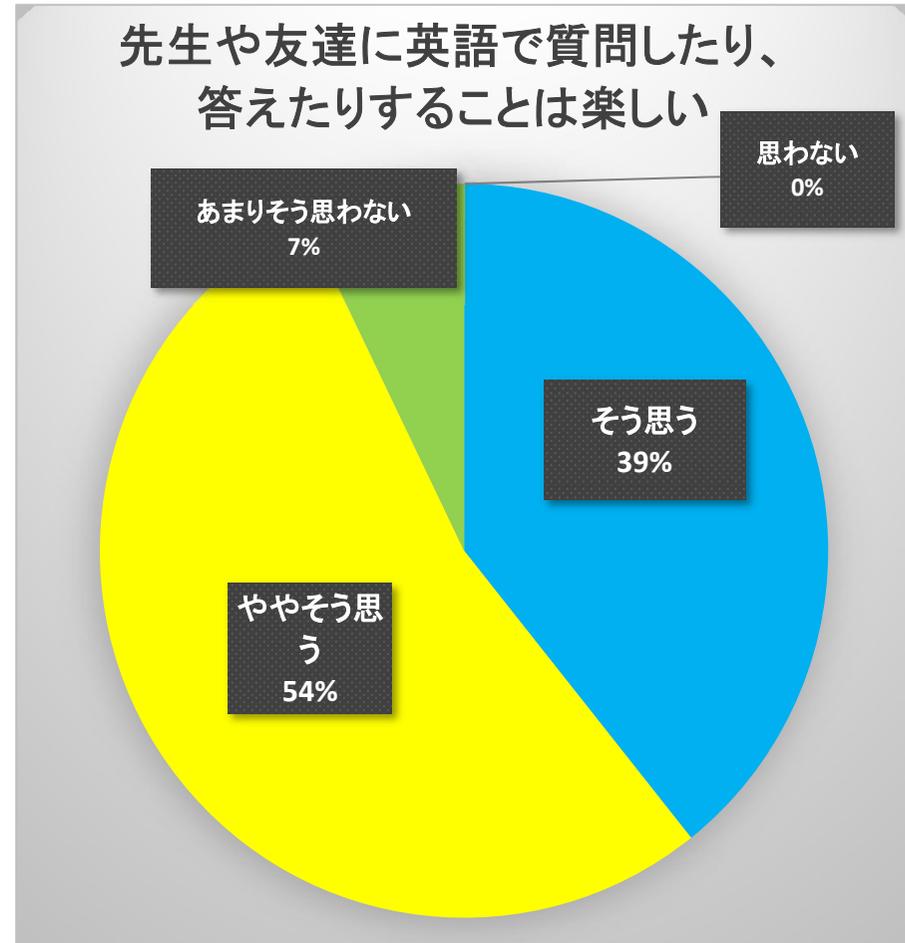
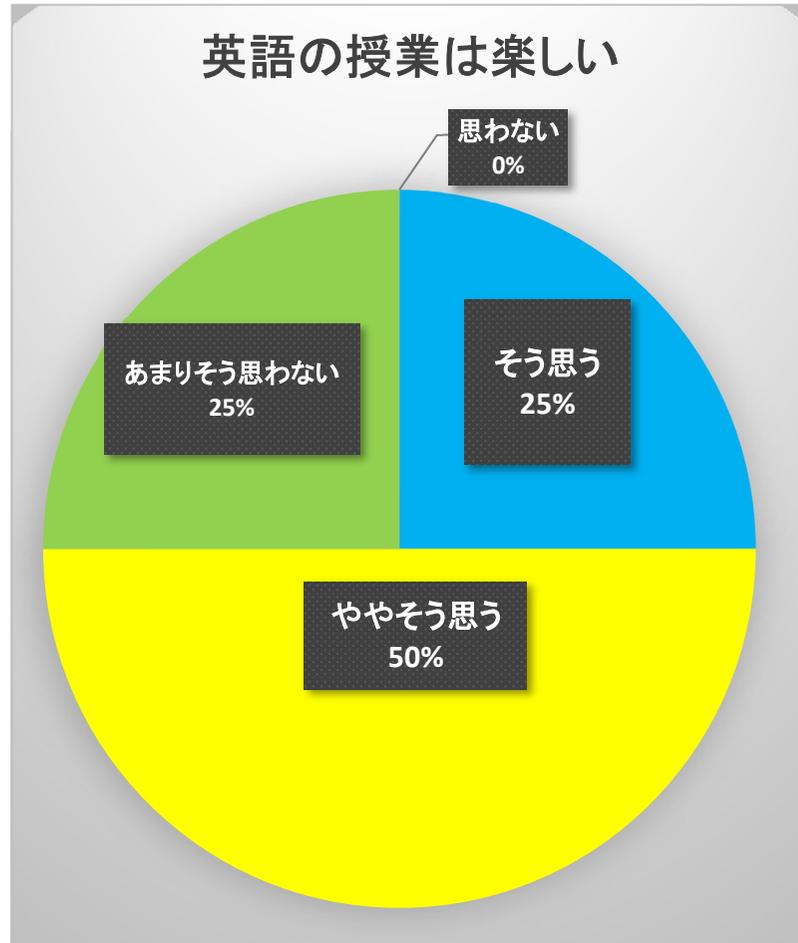


単元の最後に、会話をしている様子を撮影し、児童自身に振り返らせたり、教師の評価に活用したりする。学期に2回程度行っている。

(7) 家庭学習

教科書のQRコードを読み取り、発音練習や会話練習などを行わせる。

IV 児童の意識（6年生 9月）



「質問したり、答えたりすることは楽しい」と答える児童が93%と、表現することに対する意欲が高い。

V 現段階の成果と課題

成 果

系統性のある小・中
9年間の指導

小 中 連 携



ICTの活用

◎小・小・中で連携して、兼務英語教員による授業を行ったことにより、単元全体や単位時間の授業の進め方、教材観や学習のルールなどについて同じイメージをもつことができた。また、兼務教員間の連携を図ることにより、1～6年生までの、6年間の系統性のある授業実践を行うことができた。さらに、中学校と連携して、「Can Do リスト」や「Grow up sheet」を作成、見直すことにより、9年間の系統性のある指導の確立につなげることができた。

◎授業にICTを取り入れることにより、児童は自分で選んだ画像などを生かして交流活動に積極的に取り組んだり、録画した会話の映像を見て自分の取組を改善したりするなど、以前より自信をもって表現活動に取り組むようになってきた。

ICTを活用し、自ら学び
表現できる児童の育成

課題

課題解決に向けた具体策を講じ、来年度につなげていく。

- ・情報を共有化する方法の改善
- ・ICTを活用した授業実践の改善
- ・児童のICT操作技能の向上

- ・校内研修推進委員参加の**定期的な情報交換会の実施**
- ・相互参観授業の実施
- ・「はばプラⅡ」を基にした、授業実践事例の研究
- ・教師のICT指導力向上研修の継続
- ・児童がICTに触れる時間の確保

◎小・小・中連携 ◎ICTを活用した授業展開の工夫

- ・「はばプラⅡ」を活用する
- ・教師のICT指導力、児童のICT操作技能の向上を図る
- ・実践の共有化を図る

自ら学び、表現できる児童の育成